

## 第4回 名鉄知多武豊駅西グランドデザイン策定委員会 議事録

日 時：令和4年8月3日（水） 10：00～12：00

場 所：武豊町役場 第2・3・4会議室

出席者：千頭 聡委員（日本福祉大学教授）、加藤武志委員（中京大学講師）、  
橋詰弥久雄（武豊町商工会会長）、奥村崇岐（名古屋鉄道㈱駅運営部長）、  
久保 隆委員（地元代表長尾部長）、山下紘史（公募）、長谷川雄紀委員（公募）、  
村田千代委員（公募）、花田鮎美委員（公募）  
木村昌博（代理：朝田堅次）（愛知県都市計画課長）、  
小柳和人（知多建設事務所企画調整監）、小坂勘太郎（知多中部広域事務組合武豊支署長）  
南木宏和（独立行政法人都市再生機構中部支社都市再生業務部まちづくり支援室室長）

### 【議事録】

報告（1） 駅西グランドデザインの将来像について

会 長：広く町民に将来像を共有できるようになると良い。Tのターミナルは英語では少しニュアンスが違うが、カタカナ英語としてはよいと思う。

委 員：英語の意味として終末や終端といった意味もある。Tに当てはまる単語でアイデアがあれば提案できると良いと思う。

副 会 長：Tがつく単語として、トランスポート、トランスフォームといった言葉がある。

議事（1） 駅西グランドデザインの計画冊子（案）について

#### ・第1章～2章

会 長：カタカナが多いという指摘が他の会議でもよくあるので、用語解説を入れると良いと思う。基本的には各ページの下に入っているのでも良いと思う。

委 員：P28の転出入超過の状況について、働く世代が転出しているというニュアンスで受け取ったが、実際には学生で出ていく人もいると思うので世代が分かると良いと思う。

事 務 局：人口動向については、まち・ひと・しごと総合戦略の中で詳しく分析をしている。ここでは載せきれなかったのでも、概要を整理している。

会 長：P28の転出入超過の状況の図の中に東京都や神奈川県が記載されているが絶対数として多いのか。

事 務 局：数が多いところから表記している。

#### ・3章～4章

委 員：町民全体に対してパブリックコメントをすることになるという視点でみると、対象区域内を良くしていくということは記載されているが、区域外の町民の暮らしにも波及していくことがうまく伝わるように校正する必要がある。

会 長：P 4 8 の文章中に指摘のあった区域外の町民にも波及する計画であることを入れると良いと思う。

グランドデザインはすぐに実施する内容を記述するものではなく、中長期を見据えたデザインであることをどこかに入れると良いと思う。

例えば「働きかけます」の記述については、誰に働きかけるのかなど、文章の精度をあげられるところはあると思う。

事 務 局：文章の表現については検討する。

#### ・ 5 章

会 長：P 7 4 の内容について、最近は事業所や大学、NPOなどを含めたマルチパートナーシップのような動きもある中で、町民活動団体という言葉がそうしたものを含んでいるかが読み取れない。

事 務 局：町民活動団体は、協働のまちづくり手引書の表現であり、NPOを含んだものになっている。

委 員：武豊町と半田市や美浜町などの近隣を含めた全体で、人口や高齢化をどのように想定しているのか。

事 務 局：近隣全体ではないが、町の人口ビジョンで人口推計を行っており、2060年で4万人を目指すこととしている。現在は4万3千人くらいで推移している。

委 員：地域の企業の役割も重要になってくるだろうと思っている。

会 長：人口ビジョンが長期的なビジョンなので、駅西グランドデザインの中でも触れる必要があると思う。長期的な人口動向が示されている中での駅西グランドデザインを表現できると良い。

#### ・ 全体を通して

委 員：名鉄とJRが近いことが魅力だと思う。半田市も同じような状況で知多半田駅の周りには非常にきれいに整備されたので栄えるだろうと思っていた。しかし、建物や道路だけきれいにしても栄えるわけではないということを踏まえる必要があると思う。

委 員：時間はかかると思うが、住民参加型でつくっていくプロセスがあると参加したいと思うし、愛着が湧いてくるので良いと思う。

委 員：P 2 7 でまさに愛着がある人が多いことが意外に感じた。転入のタイミングは、結婚や出産が多いと思うので、将来像のTについては、「to the future」のような言葉があると良いと思った。

委 員：P 6 3 の「立地誘導を検討します」や「立地を検討します」という表現が気になった。また、ロードマップに記載されている社会実験について案があればわかりやすいと思う。

事 務 局：具体的内容は駅西グランドデザインの次の計画で検討していきたいと考えている。社会実験についても、次の計画でしっかり位置付けていきたい。

委 員：まちのスポンジ化という対象区域の課題があるのに対して、取組方針の中に、新たな住宅地の形成があることに違和感がある。以前の議論の中では農園として活用して地域の特徴を活かすというアイデアもあった。ゼロカーボンのような視点を打ち出した

表現のほうがよいと思う。ロードマップの中に社会実験とあるが、何のために社会実験をやるかという意味では、道路をつくって終わりではなく、活用していくことが大事なので、社会実験の後もつなげていくことを表現してはどうかと思う。

事務局：新たな住宅地の形成については、都市計画マスタープランの土地利用フレームの中で今後市街化区域に収容できない2千人を収容するための住宅地を整備することになる。社会実験については表現を検討する。

委員：P35で浸水が想定されているが、町役場が浸水区域に含まれない中で、移転について触れられている。

浸水区域内からの移転を考えている企業に対するまとまった土地がないことへの対応を考えられないかと思う。

P69に電動キックボードの記載があるが、法制度や安全面での課題もある。

委員：踏切の拡幅などの面で協力できるので協働に関する内容に事業者という言葉を入れていただければと思う。

副会長：組織を立ち上げたものうまくいかないことが多いので、この計画が対象区域内外に関わる計画であるということをおわかってもらう必要がある。また、人が関与していくことが重要であり、総働やマルチパートナーシップという言葉を入れると良いと思う。

パブリックコメントには、町民にとってわかりやすいように概要版を一緒に示すと良いと思う。自分事として捉えてもらうためにも必要だと思う。

会長：P53からP57の各エリアの記述について、「位置づけます」という表現になっているが、人や生活の姿を表現する方がよいと思う。

その他 今後のスケジュールについて

・今回頂いたご意見を踏まえた修正については、千頭会長に確認いただいたうえで、パブリックコメントを実施していくことについて了承を得た。

以上